

阿武隈川丸森地区かわまちづくり計画 (概要説明)

丸森町

仙台河川国道事務所

丸森町観光振興計画 (R5.3)

○丸森町観光振興計画 (R5.3) における課題と基本方針

- 丸森町では、「第5次丸森町総合計画（平成27年度～令和6年度）」にて、「地域自然を活かした交流の盛んなまちづくり」を目指し、観光振興の個別計画として「丸森町観光振興計画 (R5.3)」を作成しました。
- 本計画のうち、「2-1丸森の魅力をも高める観光資源のプロダクトの充実」では、阿武隈川を活かした観光客の誘致にむけ「舟下りプログラムの再構築、新しい楽しみ方の提案」、「阿武隈川沿いの景観整備」に取り組んでいます。また、「丸森のアウトドア」のブランディングにむけ「トレッキング、サイクリングコース等の充実」、「丸森アウトドア」のブランディング・プロモーション」に取り組んでいます。

丸森町の観光振興の課題

- ①強みを生かした観光資源の発掘・魅力向上
- ②リピーターの確保と来訪者の裾野の広がり
- ③滞在時間の延伸と来訪者の消費額の増加
- ④多様な分野のまちづくりとの連携
- ⑤町民の郷土愛の醸成と観光振興への参画

観光振興計画の基本戦略と取組方針、取組内容

基本戦略	取組方針	具体的な取組内容	no	主な事業
1 丸森観光のきっかけづくり	1-1 マーケティングの強化	観光データの収集・分析	1	来訪者アンケートやモニターツアーによるニーズの把握
		ビッグデータを活用した観光動向分析の実施	2	
		ターゲットに応じた効果的なプロモーションの展開	3	インバウンドプロモーションの推進
			4	教育・団体旅行の誘致
			5	オンラインツーリズムを通じた観光誘客の推進
			6	観光に関する情報の一元化による発信
			7	観光ポスター・パンフレット等のリニューアルと体系化
			8	SNSツールの整備・活用
			9	マスメディアの効果的活用
			10	整理屋敷のブランディング・情報発信
2 丸森の魅力が伝わる観光のコンテンツづくり	2-1 丸森の魅力を高める観光資源のプロダクトの充実	阿武隈川を生かした観光客の誘致	11	舟下りプログラムの再構築、新しい楽しみ方の提案
			12	景観整備を中心とした舟下りの受け入れ体制の充実
			13	舟下りに関する安全性の調査
			14	阿武隈川沿いの景観整備
			15	トレッキング、サイクリングコース等の充実
			16	不整帯公園キャンプ場の施設整備
			17	新しい働き方とアウトドアの融合
			18	「丸森のアウトドア」のブランディング・プロモーション
			19	あぶくま荘の施設整備
			20	温泉施設整備に向けた調査・検討
2-2 丸森の地産地消・商品開発等の強化	新しい魅力や新体験メニューの作成	農産物のブランド化及び特産品を活かした商品開発	21	星空ツアーをはじめとした夜間コンテンツの開発
			22	「癒し」をテーマにした森林療法
			23	獲物を活用した新たなコンテンツの作成
			24	丸森産物認証制度の更なる普及と認知向上
			25	新しい商品開発
			26	マルシェ等による新たな販路の拡大
			27	観光路開拓、販売力強化支援
			28	地元飲食店等の魅力再発掘
			29	観光所等と連携した安定供給体制確立
			30	観光所等と連携した安定供給体制確立
	31	各観光施設における飲食・販売スペースの確保		

基本戦略	取組方針	具体的な取組内容	no	主な事業		
2-2 多様な視点からの「丸森ファン」づくり	観光振興の推進	体験農業の実施	32			
		グリーン・ツーリズムの推進	33			
		農作業等体験イベントの開催	34			
		ワーケーション・フレジャーに関する調査・研究及び誘客体制の整備	35			
		新しい働き方とアウトドアの融合（両輪型）	36			
		首都圏や東北地方へのPRの実施	37			
		特定都市との双方方向ツアー事業の展開	38			
		ふるさと納税の活用	39			
		3 町民への情報発信・郷土愛の醸成	町民の意識向上と人材育成	広報誌やホームページによる観光情報の発信	40	
				小中学校向けの郷土愛の醸成	41	
観光に係る人材育成	42					
人材バンク登録	43					
ガイド・インストラクター養成等の研修会実施	44					
あぶくま荘の整備	45					
不整帯公園キャンプ場の施設整備（再掲17）	46					
整理屋敷を含めた周辺整備	47					
レンタサイクルステーション運用	48					
るんるん号等の利便性向上	49					
3-2 受け入れ体制の整備	指定管理施設を中心とした施設の整備	二次交通及び動線の充実	50			
		案内看板の統一化、再整備	51			
		モデルルートの作成	52			
		「食品輸送」の仕組みの検討	53			
		ARやVRなどのデジタル技術を活用した観光資源の磨き上げ	54			
		Wi-Fi環境の拡充等受入環境の整備	55			
		デジタル誘客を活用した観光地振興を促すためのツールやサービスの検討	56			
		観光関係者との連携共有の仕組みづくり	57			
		観光連携に関する研修・交流会の実施	58			
		3-3 観光推進体制の強化	広域連携強化	無観光推進協議会への参加、県南地域部会への参加	59	
テーマに応じた新たな地域間連携の創出	60					
民間事業者の事業活性化に向けた支援						
条例・規程等の制定に向けた各種団体からの要望や意見等の聴取・対応						

上記5つの課題に対して3つの基本戦略とこれに関する計60の事業を計画。このうち、4つの事業が本かわまちづくり計画に関連。

丸森町観光振興計画(R5.3)より引用

□: 本かわまちづくりに関連する取り組み

○丸森町観光振興計画（R5.3）の重点プロジェクト：水辺の交流拠点整備プロジェクト

- 新たに整備される観光交流拠点は、阿武隈川と国道に面した好立地条件にあります。町のゲートウェイとして、阿武隈川、アウトドアに関わる4つの取り組みに関連した拠点をめざして、地元検討部会にて意見交換を行ってきました。
- 検討部会では、「健康&アウトドア」をキーワードに、フットパス・トレイル、健康施設、阿武隈ライン舟下り、サイクリングなど様々なアイデアが出されています。事業の具体化に向け民間事業者、関係団体等と連携し、町内の回遊性の向上を図ることとして取り組まします。

○かわまちづくりによる、取組の促進と充実

- 上記の動きを、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取り組みである、かわまちづくり事業で後押しします。かわまちづくり事業とタイアップすることで、阿武隈川沿いの丸森町特有の魅力を活かし、まちの周遊促進、トレイルや阿武隈ライン舟下りの活性化に向けたソフト施策やハード施策を実施することで、水辺空間の質を向上、地域の活性化や丸森町のブランドの向上などを実現します。

観光振興計画(R5.3)の課題、基本方針、取り組み（抜粋）

- 課題①**強みを生かした観光資源の発掘・魅力向上
- ②リピーターの確保と来訪者の裾野の広がり
 - ③滞在時間の延伸と来訪者の消費額の増加
 - ④多様な分野のまちづくりとの連携
 - ⑤町民の郷土愛の醸成と観光振興への参画

基本戦略1.丸森観光のきっかけづくり

- 2.丸森の魅力が伝わる観光のコンテンツづくり
- 3.町一体となって取り組む受け入れ体制の充実

戦略2の取り組み方針

- 2-1.丸森の魅力を高める観光資源のプロダクトの充実

かわまちづくり事業

河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取り組み「かわ」が有する地域特有の魅力を活かし、「まち」と一体となったソフト施策やハード施策を実施することで、水辺空間の質を向上させ、地域の活性化や地域ブランドの向上などを実現する。

かわまちによる支援

観光振興計画と検討部会での議論、かわまちとのタイアップ内容

阿武隈川を生かした観光客の誘致
12.舟下りプログラムの再構築
15.阿武隈川沿いの景観整備



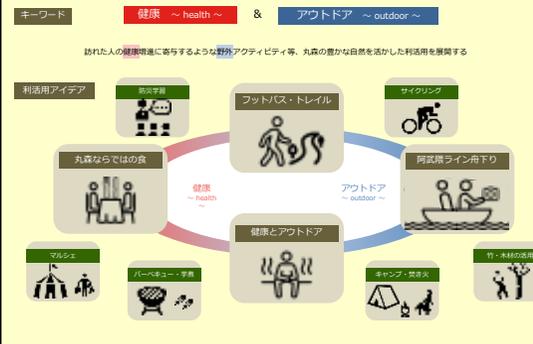
丸森のアウトドアのブランディング
16.トレッキング、サイクリングコース等の充実
19.「丸森のアウトドア」のブランディング・プロモーション

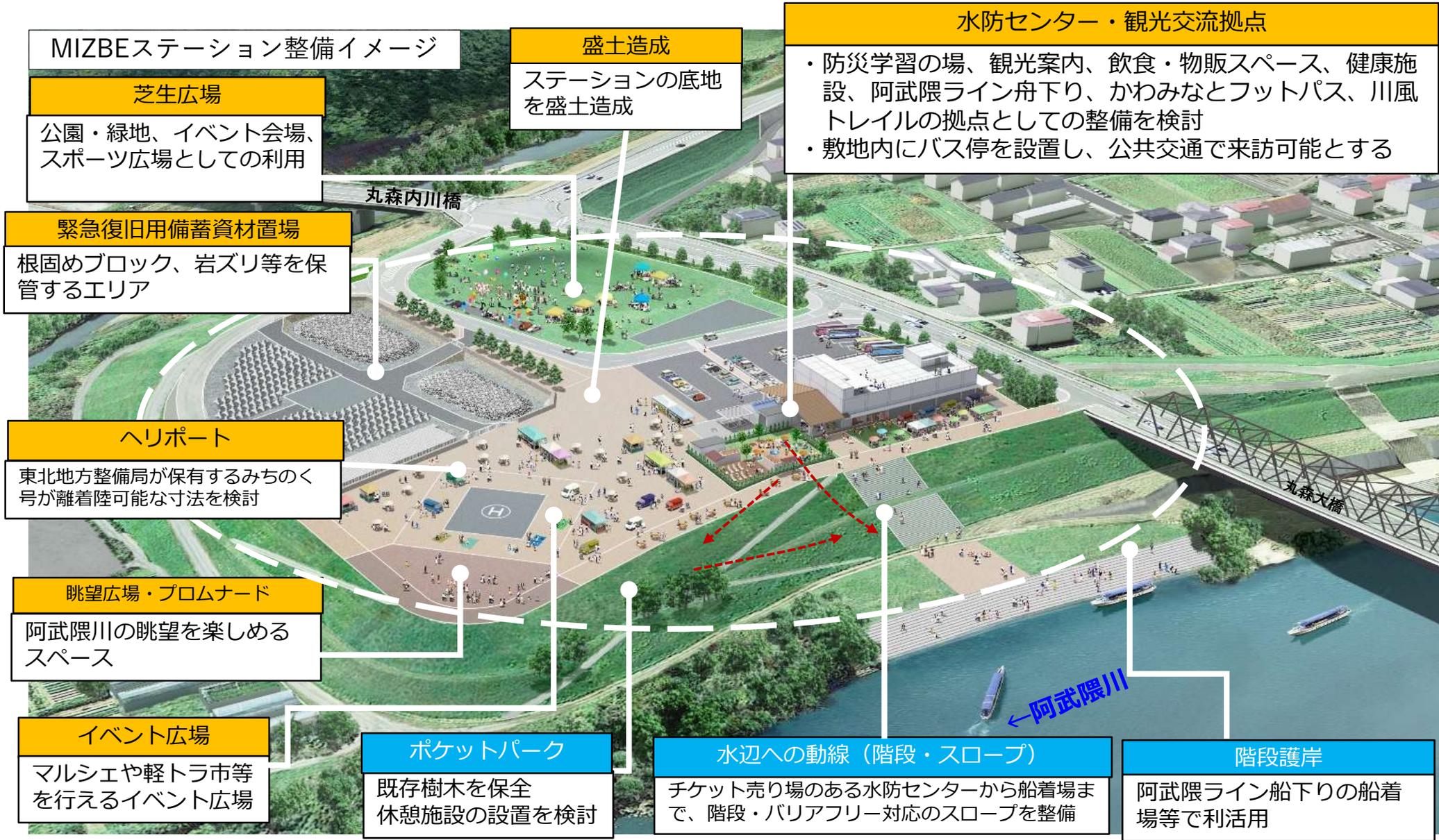


数字は、前ページ表のNo.に対応

検討部会での意見

- キーワード
健康&アウトドア
- メニュー
 - ・フットパス
 - ・トレイル
 - ・健康施設
 - ・阿武隈ライン舟下り
 - ・サイクリング 等





MIZBEステーション整備イメージ

芝生広場

公園・緑地、イベント会場、スポーツ広場としての利用

緊急復旧用備蓄資材置場

根固めブロック、岩ズリ等を保管するエリア

ヘリポート

東北地方整備局が保有するみちのく号が離着陸可能な寸法を検討

眺望広場・プロムナード

阿武隈川の眺望を楽しめるスペース

イベント広場

マルシェや軽トラ市等を行えるイベント広場

盛土造成

ステーションの底地を盛土造成

水防センター・観光交流拠点

- ・ 防災学習の場、観光案内、飲食・物販スペース、健康施設、阿武隈ライン舟下り、かわみなとフットパス、川風トレイルの拠点としての整備を検討
- ・ 敷地内にバス停を設置し、公共交通で来訪可能とする

ポケットパーク

既存樹木を保全 休憩施設の設置を検討

水辺への動線（階段・スロープ）

チケット売り場のある水防センターから船着場まで、階段・バリアフリー対応のスロープを整備

階段護岸

阿武隈ライン船下りの船着場等で利活用

丸森内川橋

丸森大橋

←阿武隈川

丸森地区かわまちづくり（かわみなとフットパス）

かわみなとフットパス 約3km(徒歩約35分)

A 河川防災ステーション・阿武隈ライン舟下り 乗船場
 → B 鳥屋館 → C 河川運動公園 → D 丸森橋
 → E 姥石・土木遺産 → F 丸森大橋 → A

川風トレイル

A 丸森駅 → B 大楯館跡・坪石 → E 姥石・土木遺産 →
 D 丸森橋 → C 河川運動公園 → B 鳥屋館 →
 A 観光交流拠点 → F 丸山城跡 → G 台町古墳群 →
 H 桜づつみ公園 → A → 周遊バス → A
 ※台町古墳群⇄桜づつみ公園 坂路・階段を整備する必要あり

トレイル愛好家向けに『川風トレイル』を設定し、他ルートとの広域連携を図る
 ・みちのく潮風トレイル
 ・町内の里山や県立自然公園を結ぶルート
 ・齋理屋敷等のまちなかルート



凡例

- 川風トレイルルート (---未開通)
- かわみなとフットパスルート (---未開通)
- 川風トレイル想定広域ルート
- A : 川風トレイルのみどころ
- B : かわみなとフットパスのみどころ
- ☆ : 観光交流拠点

立石 ↓

- キャンプ・焚き火
- バーベキュー・手煮
- サイクリング
- 竹・木材の活用

防ステ計画地

百々石公園

丸山城址

金山城址

政宗初陣の地、小斎城(柴小屋館跡) 小斎物見櫓ほか

馬船峠

深山鎮魂の鐘



竹・木材の活用

神明渡

観光交流拠点

丸森大橋

丸森竹灯り回廊 (イベント)

丸山城跡

竹・木材の活用



- 観光交流拠点周辺および阿武隈川沿いに、丸森地区の自然環境、観光資源を活かした活動、町の周遊を促進するため、「①水辺に親しむ観光拠点」「②かわみなとフットパス」を整備します。

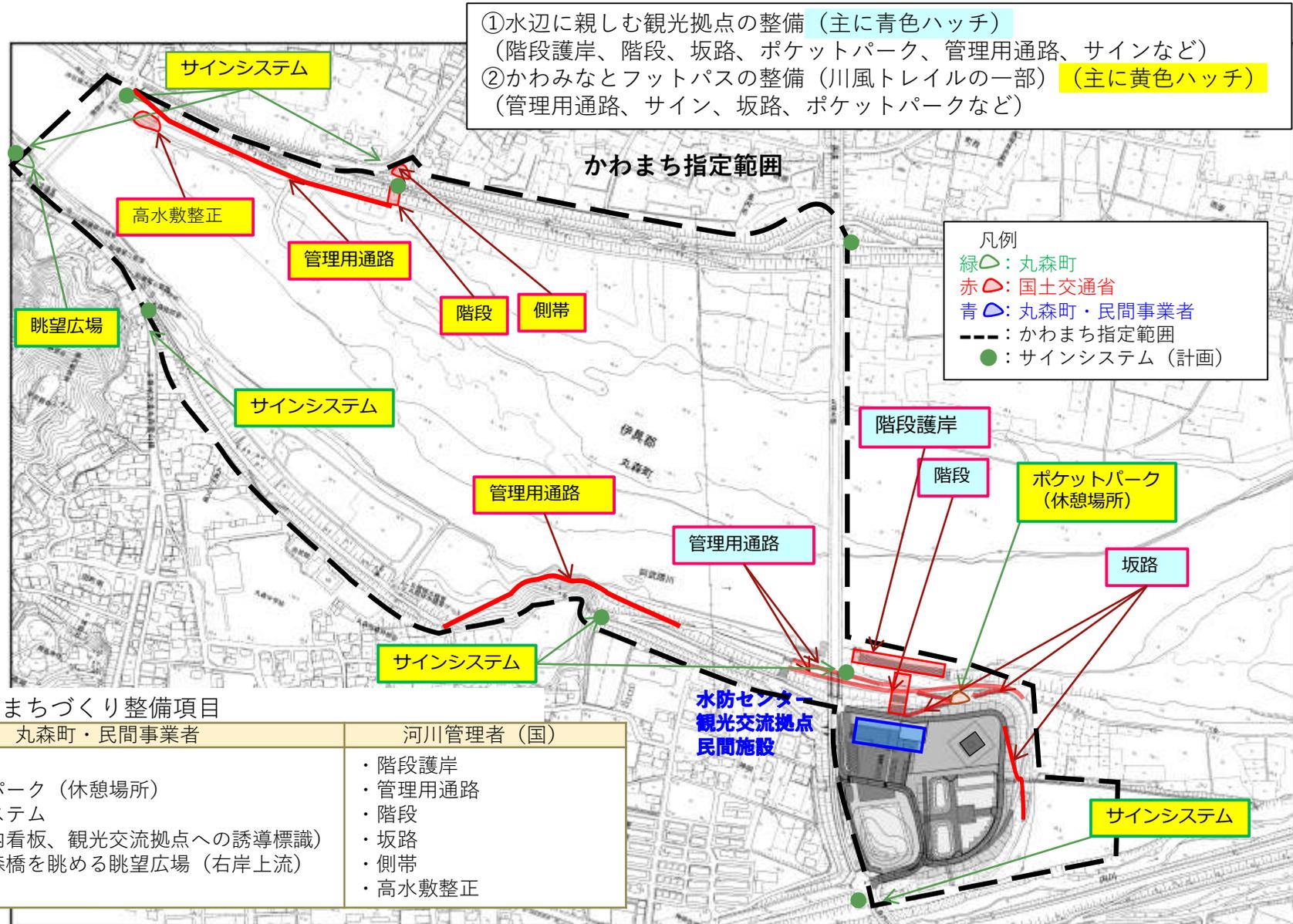
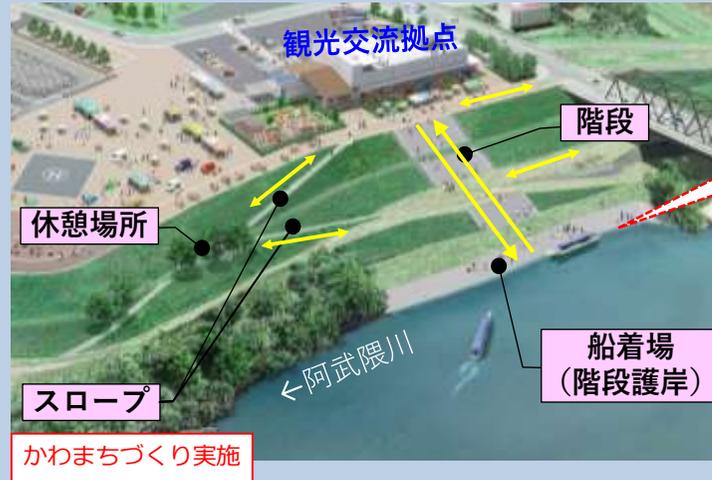


表 かわまちづくり整備項目

丸森町・民間事業者	河川管理者 (国)
<ul style="list-style-type: none"> ポケットパーク (休憩場所) サインシステム (側帯の案内看板、観光交流拠点への誘導標識) 姥石と丸森橋を眺める眺望広場 (右岸上流) 	<ul style="list-style-type: none"> 階段護岸 管理用通路 階段 坂路 側帯 高水敷整正

- 観光交流拠点の整備と連携して、船着場や階段等を整備
⇒「かわ」と「まち」が一体となり、日常に加えイベント時のにぎわいの拠点を創出

<①水辺に親しむ観光拠点の整備例>

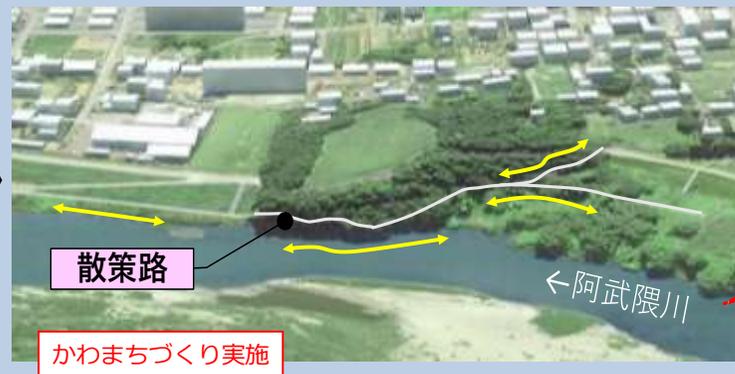


- ・阿武隈ライン舟下りの発着場として利用できるようになります
- ・阿武隈川の景色を楽しんだり、水辺に親しんだりできる場所が創出されます



- 散策路等を整備し、丸森橋～丸森大橋の左右岸、堤防を巡るルートを作成
⇒地域住民による日常の散歩や、町内観光施設への観光客の周遊を促進

<②かわみなとフットパスの整備例>



- ・散策路が整備され、安全に自然を感じながら、阿武隈川沿いを散策できるようになります

⇄ : 人の流れ

「丸森町の石工職人による東日本台風で発生した巨石を活用した護岸」が完成（不動尊公園キャンプ場内）

【不動尊地区】
護岸工（内川）
左岸施工延長 137m（令和3年7月完成）
右岸施工延長 208m（令和4年3月完成）



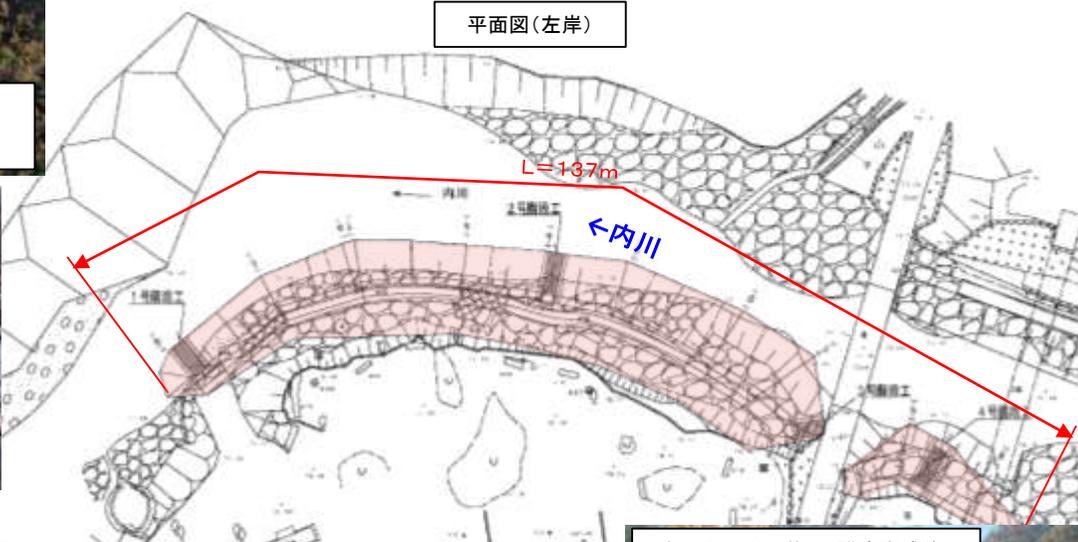
巨石採取



巨石据付状況

現地発生材
有効活用

着手前 全景 令和2年11月

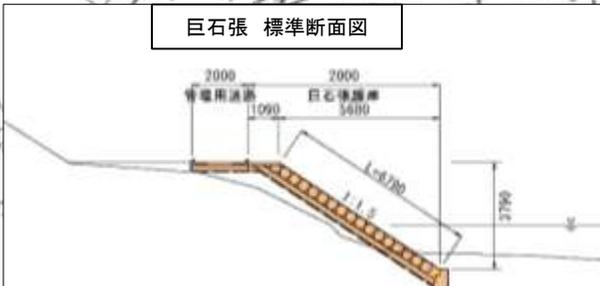


平面図（左岸）

完成 令和3年7月



巨石張 標準断面図



水辺の利活用状況（護岸完成後）



概要 ニツ井きみまち地区かわまちづくり

- 一級河川米代川と国道7号に隣接する地理的な特徴を活かし、「かわまちづくり（川の駅）」「MIZBEステーション（河川防災ステーション）」「道の駅」の各事業を一体的に整備した取組により、水辺空間と地域資源(七座神社、きみまち阪自然公園)が連携した相互の利活用が可能となり、地域全体の交流の場および賑わいの場を形成している。
- 一体的に整備した河川防災ステーションは、令和5年3月『MIZBEステーション』に登録。災害時における「水防センター（水防団待機スペース）」で、平時には祭りやイベントを開催するなど、新たな賑わいの場を創出している。



取組・効果（ハード・ソフト両面の施策）

● 水辺に近づくための管理用通路・休憩施設（ベンチ）を整備

→ 米代川を中心に七座神社、七座山、きみまち阪公園などを眺めながら散策が楽しめる河川空間を創出し、管理用通路をウォーキングコースに設定し、市民の健康づくりに寄与。

● 水辺にカヌー発着場となる親水護岸を整備

→ 親水護岸を発着場とするカヌー体験を新たに実施。当日の申込みで気軽に参加できるプチカヌーが人気となり、近年、体験者数が増加傾向。また、幼稚園児による稚魚の放流等が行われている。

● 多目的広場（水防活動スペース）の整備

→ 多目的広場（水防活動スペース）を活用した祭り・イベントを開催し、地元の店舗を中心としたグルメフェアに、観光客を含め多くの人が集い、新たな交流の場を創出。



管理用通路：散策路



親水護岸：カヌー体験



備蓄資材置場（土砂）



備蓄資材置場（根固ブロック）



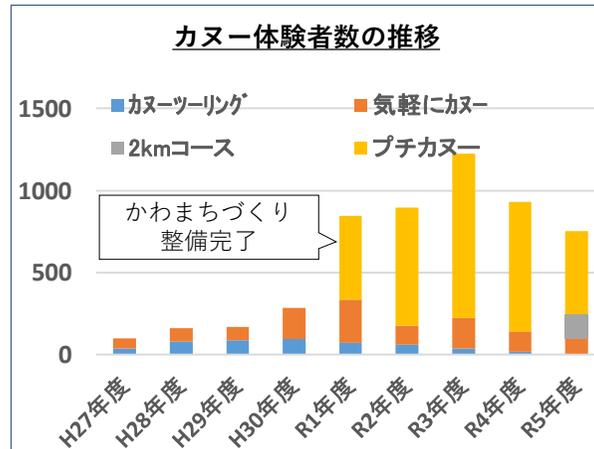
MIZBEステーション：車両格納庫



親水護岸：稚魚の放流



多目的広場（水防活動スペース）：祭りイベント



・カヌー教室がH27年度から開催されている。
 ・R3はコロナ禍における県境を跨いだ行動の自粛に伴い、県内で楽しむことのできる屋外のレジャースポットに利用者が集中したことにより、利用者数が増加したものと推定される。



排水ポンプ車



照明車



多目的広場（水防活動スペース）：祭りイベント